

中学校・義務教育学校 の取組事例

音更町立音更中学校

取組の名称 生徒会主体の全校レクリエーションの実施

12月15日(金)6時間目

場所：音更町立音更中学校 各教室・体育館

校長名 佐藤 育子

全校生徒数 288名



【レクリエーションの様子】

取組の概要

異学年間の心の交流によるコミュニケーション能力の向上及びいじめのない学校づくりをねらいとして、生徒会書記局が主体となり、全校レクリエーションを企画、実施した。生徒全員を15グループに分け、謎解きゲームを行った後、全校生徒が、体育館に集まり、クイズ大会を行い、異学年間の交流をテーマに、多くの人と会話することによるコミュニケーションを深められる機会を設定した。

【生徒の感想】

レクリエーションの中で、仲間を助けるために協力したり、お互いの気持ちや行動に目を向けることができたりしたことがよかった。

成 果

学年、学級を問わず交流をする場を作ったことにより、生徒同士のつながりが深まるとともに、学校生活における緊張の緩和及びいじめや悩み等を相談できる互いに打ち明けやすい雰囲気醸成することができた。

音更町立下音更中学校

取組の名称 安心できる居場所づくり～「目安箱」

年間を通じて実施

場所：音更町立下音更中学校

校長名 田中 幹也

全校生徒数 391名

絆 ～安心できる居場所づくり～

執行部便り No.02

★目安箱について

学校生活をより良いものにするため、すべての委員会に向けての意見・要望を目安箱で受け付けます。全校生徒用クラスルームにあるので、ぜひ使ってください。

～使い方～

〈名前・どの委員会に向けての意見なのか・その委員会に向けての意見・要望〉を書いてください。

<https://forms.gle/DQ1eHkk4fBDs9kqz7>



学校生活をより良いものにするために
ご協力よろしくおねがいします！

取組の概要

生徒会執行部が主体となり、安心できる居場所づくりに向けた生徒の気付きや意見・要望を汲み上げることがをねらいとして、「目安箱」を1人1台端末内に専用のURLを貼付することで設け、いつでもどこでも誰にでも利用することができるようにすることにより、日常生活の中で気付いたよいこと、よくないこと、不安なこと等を寄せ合う活動とした。

【生徒の感想】

周囲を気にせず、気軽に意見を寄せることができるところがよい。誰もが安心して過ごせる学校となるようにしていきたい。

成 果

1人1台端末内に目安箱を設置したことにより、「お悩みポスト」と同等の成果が期待できるとともに、ダイレクトに生徒会担当教諭が把握し、いつでも、どこでも、誰でも利用できることから、いじめの抑止力につながっている。

音更町立駒場中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ標語」の取組

12月13日(月)～12月20日(月)

場所：音更町立駒場中学校 各教室

校長名 松本勝弘

全校生徒数 73名



【いじめ標語掲示の様子】

取組の概要

生徒会書記局が主体となり、いじめを絶対に許さないという態度や、生徒同士のつながりを高めることをねらいとして、「いじめ標語」の活動を行った。全校生徒が、いじめ根絶に向けて作成した「いじめ標語」を生徒会書記局に提出し、生徒会書記局が、提出されたものの中から各学年1～3作品を選考し、生徒会便り及び校内掲示により、いじめ根絶を訴えた。

【生徒の感想】

いじめ根絶に向けた標語の作成を通じて、いじめを絶対に許さないという気持ちが高まった。掲示された他の生徒の作品から、いじめ根絶に向けた強い気持ちを感じた。

成 果

全生徒が、いじめ根絶に向けた標語を作成したことにより、いじめを絶対に許さない態度が醸成されるとともに、標語を掲示したことにより、学校全体として、いじめ根絶に向けた気運の高まりが見られた。

音更町立緑南中学校

取組の名称 生徒会主体の「RYOKUNAN いじめ撲滅サミット」の取組

11月16日(木)～12月20日(月)

場所：音更町立駒場中学校 各教室

校長名 宮脇秀士

全校生徒数 321名



【いじめ撲滅サミットの様子】

取組の概要

生徒会書記局が中心となって、いじめを絶対に許さない態度の育成に向け、生徒がいじめ問題を自分事として考え、発信することをねらいとして、「RYOKUNAN いじめ撲滅サミット」を行った。リモート配信により、全学級で「学校の行動宣言」について振り返るとともに、学級ごとに重点的に取り組む具体的な「行動宣言」を決定し、各学級の意見を全体で共有した。

【生徒の感想】

全学級の行動宣言を共有することにより、各々の意識が一層高まり、身近な問題として受け止めることができた。

成 果

サミットでは、「周囲が、いじめている子に指摘し、考えを改めるように説得します」「行動に責任をもち、自分がされたら嫌な発言はせず、気持ちをコントロールし、差別を減らします」が採択され、いじめ根絶に対する当事者意識の高まりが見られた。

音更町立共栄中学校

取組の名称 明るい学校生活を送るための取組

10月～3月

場所：音更町立共栄中学校

校長名 佐々木 典 郎

全校生徒数 248名



【募金活動の様子】

取組の概要

生徒会書記局が中心となり、全校生徒が過ごしやすい環境をつくることをねらいとして、挨拶運動及び募金活動を行った。生徒会書記局が、毎週月・木曜日に、生徒玄関で、挨拶運動を行い、挨拶を通じた人間関係の形成の大切さを伝えるとともに、11月に、町内のスーパーマーケット前で、赤い羽根共同募金を実施し、地域の方と交流する機会を設定した。

【生徒の感想】

朝から互いに挨拶を交わすことで、さわやかに一日を過ごすことができた。募金活動を通して、地域の人たちの温かさに触れることができた。

成 果

挨拶を元気よく笑顔で行うことにより、生徒相互の人間関係が形成され、いじめをしない雰囲気をつくることができたとともに、学校内だけでなく、地域の方と交流する機会を通して、地域の雰囲気を明るくすることができた。

土幌町立土幌町中央中学校

取組の名称 生徒会主体の「きずな集会」の取組

2月9日（金）6時間目

場所：土幌町立土幌町中央中学校体育館

校長名 小 室 彰 人

全校生徒数 164名



【きずな集会の様子】

取組の概要

他者を認め、感謝や思いやりの気持ちを醸成するとともに、いじめを絶対に許さない態度を育成することをねらいとして、「きずな集会」を行った。生徒会書記局が中心となり、各学級で「幸せ、スマイル目標」について話し合い、全校きずな集会で発表するとともに、各学級で「幸せ、スマイル目標」を考え、ポスターを作成して、全校集会で発表し、校舎内に掲示して全校生徒で共有した。

【生徒の感想】

各学級の目標をしっかりと守ることにより、学校全体が、いじめのない雰囲気になってほしいと思った。

成 果

各学級において、みんなが幸せに安心して過ごすことができる学校づくりに向けて、生徒同士で話し合い、考える活動を通して、声を掛け合い、共感的な理解を示す姿が見られるなど、いじめ根絶に対する当事者意識の高まりが見られた。

上土幌町立上土幌中学校

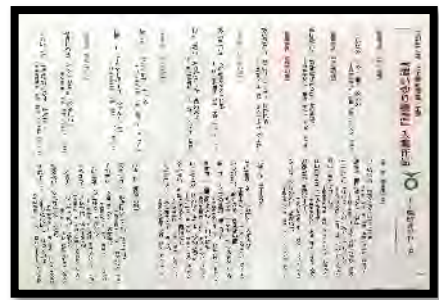
取組の名称 「思いやり標語(メッセージ)」の取組

7月21日(金)～8月21日(月)

場所：上土幌町立上土幌中学校生徒会

校長名 新 倉 忠 司

全校生徒数 103 名



【入賞作品・校内掲示】

取組の概要

生徒会書記局が中心となって、いじめ防止・ネットトラブル・防犯・事故防止などの意識を高めることをねらいとして、全校生徒から「思いやり標語(メッセージ)」を募集し、意識の向上を図った。生徒の「思いやり標語(メッセージ)」から、最優秀賞・優秀賞・佳作を審査・選定して表彰を行うとともに、入賞作品を校内に掲示して啓発活動を行うことにより、思いやりの意識の向上を図った。

【生徒の感想】

いじめは絶対に許せないことです。人はそれぞれ違って当たり前ですから、いじめの理由にはなりません。意識をもって生活したいです。

成 果

生徒が作成した標語をいじめの根絶とインターネットの適切な利用に関する啓発活動に活用することにより、よりよい人間関係を構築しに向けた意識を高め、「いじめはどんな理由があっても絶対に許さない」という風土を醸成することができた。

鹿追町立鹿追中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶」の取組

9月27日(水)1時間目

場所：鹿追町立鹿追中学校各教室

校長名 上 野 精 嗣

全校生徒数 122 名



【いじめ撲滅全校集会の様子】

取組の概要

生徒会書記局が中心となり、いじめに対して主体的に考え、いじめを起こさせない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会書記局が作成した「いじめについての動画」を各教室で視聴し、それぞれの教室で生徒会書記局が先導して、いじめについて考え、文章にまとめる活動を行った。また、縦や横のつながりを作ることを目的とする生徒会書記局主催の全校集会を年に3回実施した。

【生徒の感想】

絶対に傍観者や加害者にならないようにする。いじめられている人がいたら自分を犠牲にしてでも助けようと思った。

成 果

振り返りシートでは、「いじめている側も見ている側も今の立場を守るためにもがいているように見える。加害者を懲らしめるのではなく『いじめなければ保てない心』をケアすることが必要」などの記述があり、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

鹿追町立瓜幕中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月19日(木)6時間目

場所：鹿追町立瓜幕中学校体育館

校長名 玉川 弘 幸

全校生徒数 37名



【いじめ根絶集会の様子】

取組の概要

生徒会書記局が中心となって、生徒同士がお互いの思いを認め合い、共感的に受け止めることができる「よりよい瓜中づくり」につなげることをねらいとして、「いじめ根絶集会」を企画・実施した。全校生徒が、10グループに分かれて、意見を言いやすい雰囲気とはどんな雰囲気か、意見を言いやすい雰囲気をつくるにはどうしたらよいか等をテーマに話し合い、グループ毎にまとめた後、全体で交流した。

【生徒の感想】

明るい雰囲気づくりや全員が協力してよい雰囲気をつくるのが大切だと思った。相手の意見を尊重して受け入れ、自分の意見を言うのが大切だと思った。

成 果

集会後のアンケートから、「何気なく使っている言葉がいつの間にか人を傷つけているかもしれないことを考えさせられた。みんなが発言しやすい雰囲気を作れるように意識しようと思った。」など、お互いを尊重しようという意識の高まりがみられた。

新得町立新得中学校

取組の名称 生徒会主体の挨拶運動・いじめゼロカードの取組

1月～2月

場所：新得町立新得中学校

校長名 桜井 紀夫

全校生徒数 92名



【いじめゼロカード・感謝カード】

取組の概要

生徒会書記局が主体となり、生徒が心と心のつながりを持ち、相手を思いやる心を育むことをねらいとして、皆が元気で気持ちのよい挨拶を交わし合える学校づくりのための「挨拶運動」と、互いを尊重し合う気持ちを育み、「いじめは絶対許されない」という思いの醸成と周囲の人への感謝の気持ちを表現するため、生徒全員がいじめゼロカード・感謝カードの取組を行った。

【生徒の感想】

お互いを思いやる行動や人への感謝について考えることができた。学年の壁を越えたメッセージによるつながりに加え、積極的に多くの人と交流していきたい。

成 果

挨拶の意義を理解し、全校生徒が自然に挨拶を交わし合うことで、安心・安全な学校風土を醸成するとともに、生徒が、相手を思いやる気持ちをもって生活することの大切さを理解し、いじめを絶対に許さない風土の醸成を図ることができた。

新得町立屈足中学校

取組の名称 「いじめゼロカード」の取組

10月25日(水)昼休み

場所：新得町立屈足中学校各学級

校長名 七田 伸克

全校生徒数 18名



【いじめゼロカード】

取組の概要

新得町が推進している全町教育の一環として、生徒会役員が中心となり、「いじめゼロカード」の取組を実施した。生徒会役員が、生徒のいじめ根絶に向けた意識を高めるため、学校全体で、「いじめを絶対に許さない」という意識を共有するとともに、全校生徒に活動の意義と目的を伝え、生徒が一人一枚ずついじめ根絶に向けた思いをカードに書き、生徒玄関前に掲示し、意識できるようにした。

【生徒の感想】

いじめは絶対してはいけないし、いじめを見て見ぬふりを絶対しない。その人の立場になって考え、もしも、辛い思いをしている人がいたら積極的に声をかけたい。

成 果

全校生徒が作成したカードをまとめ、生徒玄関に掲示し、毎日誰もがみられるようにしたことにより、登下校のたびに自分たちが記入したカードを目にすることで、いじめ根絶に対する意識を高め、いじめの未然防止につなげることができた。

新得町立富村牛小中学校

取組の名称 児童生徒会主体の「いじめをなくそう集会」

2月22日(木)昼休み

場所：新得町立富村牛小中学校体育館

校長名 石丸 揚一朗

全校児童生徒数 11名



【「いじめをなくそう集会」の様子】

取組の概要

全校の児童生徒が楽しく活動し、友だちとの関わりを深めることをねらいとして、児童生徒会が主体となり、「いじめをなくそう集会」を開催した。ゲームを通して、児童生徒が相互理解を深め、互いを尊重することができるよう、友だちのよいところを発表し合ったり、全校の児童生徒がコミュニケーションを図りながら楽しんだりできる活動を行った。

【児童生徒の感想】

全校のみんなで活動するのは、とても楽しいです。友だちに自分のよいところを言われるととてもうれしい気持ちになりました。

成 果

全校の児童生徒で活動する機会を設定することにより、相手を思いやる気持ちを育むことができたとともに、「いじめをなくそう集会」の目的をしっかりと意識して内容を考えることにより、いじめの未然防止について主体的に考えることができた。

清水町立清水中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ見逃しゼロ」の取組

2月5日(月)昼の放送(給食時間)

場所: 清水町立清水中学校(放送室・各学級)

校長名 内田 得裕

全校生徒数 160名



【昼の放送で生活委員長が話す様子】

取組の概要

生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会が中心となり、いじめをなくして思いやりある温かな学校、安全で安心できる平和な学校をつくらうという生徒一人ひとりから上がった声を、昼の放送で全校生徒に紹介した。その後行ったピンクシャツデーの取組と合わせて、いじめ撲滅に向けた活動とした。

【生徒の感想】

全校生徒が足並みをそろえて、同じ気持ちで取り組んでいると実感できた。インターネットを介したやりとりの中で、安易に使った言葉で人を傷つけないよう注意する。

成 果

アンケートには「みんなで取り組むことで、いじめで悩んでいる人の支えになればよい。傍観するのではなく行動を起こすことが大切だと思う。」といった前向きな回答が多く見られ、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

清水町立御影中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ0標語」の取組

12月

場所: 清水町立御影中学校

校長名 乙戸 貴宏

全校生徒数 78名



【いじめ0標語活動の様子】

取組の概要

生徒会が主体となり生徒一人一人がいじめについて考えることをねらいとして、「いじめ0標語」の取組を、全校いじめ根絶運動の一環として企画・実施した。「いじめをしない・させない・許さない」を合い言葉に、生徒各自が標語を作成し、各学級の標語を発表、交流を深める機会とし、作成した標語をカードに記入し、全校生徒の標語をまとめ、「いじめ撲滅」の意識につながるよう教室前廊下に掲示した。

【生徒の感想】

自分や周囲の人たち、友人は大切な存在であることに改めて気が付いた。普段、何気なく生活しているが、思いやりをもって周囲に接することを意識して生活したい。

成 果

各学級での行動宣言後、授業や日常生活の中で、相手を尊重する意識、気遣いの言動等が見られるようになるとともに、生徒会を中心とした生徒が主体となったいじめ撲滅に係る取組を継続して行う姿が見られた。

芽室町立芽室中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ撲滅集会」の取組

12月13日(水)5時間目

場所：芽室町立芽室中学校体育館

校長名 尾崎俊明

全校生徒数 382名



【全校生徒によるいじめ撲滅宣言】

取組の概要

I(いじめの)N(ない)G(学校)を目指したING集会を毎年行っている。「いじめはあってはならないこと」という認識を高めることをねらいとして、生徒会本部が企画・運営した。身近で起こりうるいじめの場面を寸劇で紹介し「いじめが起きない学級の雰囲気づくりとは」の動画を全校生徒で視聴した。その後、一人一人が「いじめ撲滅に向けて自分ができること」を宣言し、全員の付箋を生徒玄関に掲示した。

【生徒の感想】

相手を知ることから始めたいと思います。そのために、積極的にコミュニケーションを取っていこうと思いました。相手を思いやって過ごすことが大切だと思いました。

成 果

生徒のいじめ撲滅宣言から「いかなる理由であろうと、いじめは許されるものではない」「仲間との関係をもっと深めていきたい」という意識が高まったと感じた。今後も生徒会を中心に全校生徒が考え、行動する場を継続していく。

芽室町立上美生中学校

取組の名称 「いじめ見逃しゼロ運動」の取組

2月1日(木)～2月16日(木)

場所：芽室町立上美生中学校

校長名 中村浩幸

全校児童数 20名



【いじめ見逃しゼロ運動の様子】

取組の概要

生徒会書記局が主体となり、「いじめ見逃しゼロ」に向けたいじめの正しい理解や適切な言動によるコミュニケーションの促進をねらいとして、「いじめ見逃しゼロ運動」を実施した。生徒会長による「いじめ見逃しゼロ」に係るメッセージや「いじめゼロ推進ポスター」を校内に掲示するとともに、「いじめ見逃しゼロ」に係る具体的な場面を想定したショートムービーを作成していじめを見逃さない雰囲気の醸成を図った。

【生徒の感想】

自分が「これ位ならいじめじゃない」と思うことでも、相手を嫌な気持ちにさせてしまういじめとなっているかもしれないことに気を付けなければならない。

成 果

自分がいじめと感じていない言葉や行為が、時に相手を傷つけてしまうことや相手を思いやることの大切さに気付くことができたという感想が多く見られ、いじめを見逃さないという雰囲気の醸成を図ることができた。

芽室町立芽室西中学校

取組の名称 生徒主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月21日(木) 5時間目

場所：芽室町立芽室西中学校多目的ホール

校長名 椿原雅章

全校生徒数 147名



【話し合いとメッセージづくり】

取組の概要

いじめ根絶集会とメッセージ交換において、生徒がいじめに対して主体的に考え生徒同士で感謝メッセージを送ることを通して、いじめを絶対に許さない態度と温かい思いやりを育むことをねらいとして、生徒会書記局が中心となり、話し合いとメッセージ作成を行った。話し合いにおいて、グループごとに議論を深めるとともに、メッセージ交換を行った。

【生徒の感想】

日常生活の何気ない「じゃれあい・ふざけあい」が行き過ぎて発した言葉や関わり合いが、相手を傷つけ、不安にさせていた。相手の思いを考えながら接していきたい。

成 果

いじめ根絶集会の実施後のアンケートでは、「どんな理由があろうといじめや意地悪をしてはいけない」などの記述があり、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

中札内村立中札内中学校

取組の名称 生徒会主体「全校絆レク」の取組

2月6日(火) 7日(水) 昼休み

場所：中札内村立中札内中学校体育館

校長名 森 英 樹

全校生徒数 110名



【「全校絆レク」の様子】

取組の概要

生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、よりよい人間関係づくりといじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会書記局が中心となり、全校レクリエーションを企画した。全校生徒を10グループに分け、異学年交流を通して、生徒相互の思いやりある人間関係の構築と絆を深め、最後に生徒会規約第2条(いじめや暴力を絶対に許さない正義の心)を全体で再確認する取組を実施した。

【生徒の感想】

レクリエーションを通して会話が弾み、絆を深めることができた。自分も周りも大切にすることをみんなが意識して生活することが大切だと思った。

成 果

中札内村いじめの根絶に向けた子ども会議の取組を軸に、生徒会が中心となって推進することにより、生徒同士の絆の深まりや信頼感及びいじめ根絶に対する意識が高まった。

更別村立更別中央中学校

取組の名称 「どんぐり村子ども会議」の中心的役割としての取組

1月25日(木)

場所：更別村立更別中央中学校図書室

校長名 島村雅樹

参加生徒数 4名



【会議の様子】

取組の概要

生徒のいじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会書記局が中心となり、「どんぐり村子ども会議」を行った。SNS等における人権を意識した適切なコミュニケーションの在り方について考えることにより、他者を思いやる気持ちの大切さを再確認し、いじめの未然防止につなげるとともに、「更別村いじめ撲滅宣言」の全校生徒への啓発を行った。

【生徒の感想】

各学校の取組を参考にいじめを起こさない取組について工夫し、相手の気持ちを考え、助け合っていく学校づくりを行っていきたい。

成 果

生徒にとって身近な SNS 等を題材に、生徒が主体的にいじめ問題について考えることにより、「どんぐり村子ども会議」の実施後の感想からいじめを絶対に許さない態度の育成と人権意識の高揚が図られた。

大樹町立大樹中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月18日(月) 5・6時間目

場所：大樹町立大樹中学校体育館

校長名 長江教貴

全校生徒数 137名



【全校レクミニバレーの様子】

取組の概要

他学年やクラスメイトとコミュニケーションを図ることにより、相互理解を深め、「いじめはどんな理由があっても許されない」という心を育むことをねらいとし、全校レクリエーションを行った。開会式において、書記局が取組の趣旨を伝えるとともに、いじめに対する認識を再確認することにより、他学年と楽しみながら関わり合うことができるよう、ミニバレーボールを行った。

【生徒の感想】

開会式で、いじめは絶対に許されないことだとしっかり考えることができたと思う。全校生徒で楽しむことで、大切な仲間であるという感覚を得ることができた。

成 果

生徒会を中心に、全校生徒で一つのものを作り上げたという達成感が、大樹中学校全員の仲間意識を高めることにつながるとともに、取組の趣旨を明確に伝えた活動を行うことにより、全校生徒のいじめは絶対に許さない態度の育成につながった。

広尾町立広尾中学校

取組の名称 生徒会主体のいじめに関する作文の取組

1月31日(木)朝読書

場所：広尾町立広尾中学校各教室

校長名 吾妻昌三

全校生徒数 132名



【作文に取り組む様子】

取組の概要

生徒が主体的にいじめ根絶に向けて考え、活動することをねらいとして生徒会書記局が中心となり、毎週水曜日の朝作文の時間を活用して、「いじめをなくすために」をテーマとした作文を書く活動を行った。書いた作文を生徒玄関前ホールに掲示し、クラスメイトや他学年の生徒の作文を交流する期間を設定した上で、後日、テーマに基づく話し合いを行った。

【生徒の感想】

いじめは絶対に許されないという1人1人の意識を改善することや思いやりをもって誰とでも、どんなことでも言い合える環境づくりをすることが大切だと思った。

成 果

生徒1人1人が、いじめに対する自分の考えを改めて見直す機会になるとともに、作文の内容を交流して話し合うことにより、学校全体でいじめを絶対に許さない風土を醸成することができた。

幕別町立幕別中学校

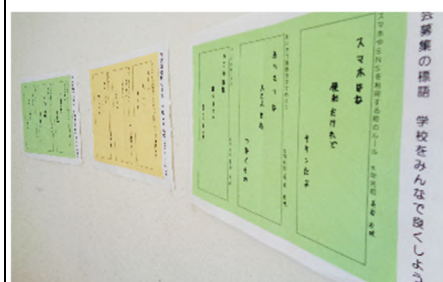
取組の名称 いじめ根絶に向けた生徒会による取組

通年

場所：幕別町立幕別中学校校門前、生徒玄関、体育館、校内

校長名 橋本靖宏

全校生徒数 82名



【いじめ根絶標語の掲示の様子】

取組の概要

いじめ根絶に向けて生徒会が主体となり、月2回の幕別小学校の児童との合同あいさつ運動、全校生徒による学校をよりよくするための標語づくり、よりよいコミュニケーションを図る態度を醸成するための全校生徒を縦割り班に分けた交流レクの取組を実施するとともに、どさんこ子ども十勝地区会議における取組事例を交流し、活動を振り返った。

【生徒の感想】

あいさつを交わすことにより、互いに元気をもらえ、登校が楽しくなった。標語を作成したり、考えたりすることで、よりよい学校づくりの意識が高まった。

成 果

生徒会が主体となって、いじめ根絶に向けた取組について考え、実施したことにより、生徒が自分たちの学校の環境を自分たちの手でよりよくしようという意識の高まりが見られた。

幕別町立糠内中学校

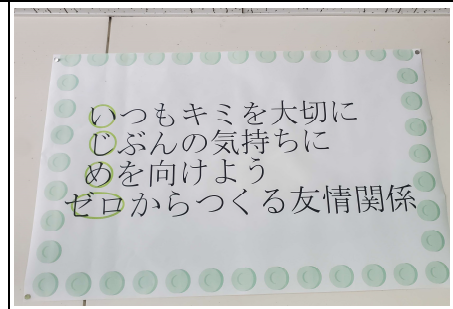
取組の名称 生徒会主体の「いじめゼロ」の学校作り

2月7日(水) 14:45~

場所: 幕別町立糠内中学校

校長名 宗形 真恵

全校生徒数 11名



【「いじめゼロ」につながるポスターの掲示】

取組の概要

生徒会が主体となり、生徒同士のコミュニケーションにおける自分自身の気持ちを振り返ることをねらいとして、いじめゼロにつながるポスターを作成した。「ゼロからつくる友情関係」のフレーズは、生徒になじみのあるアニメのフレーズであり、新たな気持ちで相手と自分自身を大切にしていこうという気持ちになってほしいという願いが込められている。

【生徒の感想】

今までにない新しいアイデアのため新鮮さが感じられ、いいなと思いました。最後のフレーズが印象に残りました。

成 果

生徒玄関に掲示しているため、毎日見ることになり、日常生活の中で自然に「いじめゼロ」を意識することができる。そのため、生徒は今まで以上に温かい雰囲気の中で一日の学校生活を始め、終わることができている。

幕別町立札内中学校

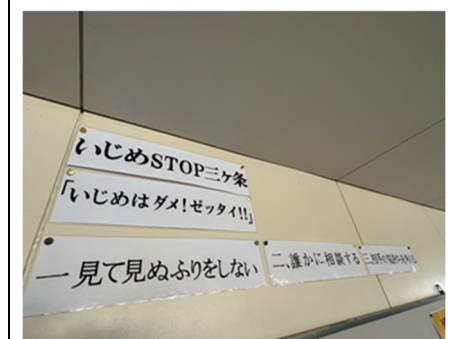
取組の名称 生徒会主体の「いじめ STOP 三ヶ条」の取組

9月6日(木) 6時間目

場所: 幕別町立札内中学校各教室

校長名 久保 睦 則

全校生徒数 332名



【いじめ STOP 三ヶ条の掲示】

取組の概要

生徒会が主体となって全校生徒を対象に、いじめ根絶に向けた意識を高めることをねらいとして、「いじめをなくすためにはどうしたらいいのか」というアンケートを実施するとともに、「1 見て見ぬふりをしない」、「2 誰かに相談する」、「3 相手の気持ちを考える」の「いじめ STOP 三ヶ条」を作成して生徒玄関前に掲示することにより、全校生徒のいじめ見逃し 0 の意識の向上を目指した。

【生徒の感想】

すぐに実践できる内容をまとめ、生徒玄関廊下前に掲示することで、いじめ根絶への意識をさらに高めることができた。

成 果

アンケートの実施をはじめ、いじめ STOP 三ヶ条を生徒全員が見える場所に掲示することにより、日頃から共通の認識の下に注意喚起や意識高揚を図ることができることから、今後も取組を継続し、いじめは絶対に許されない校風を構築する。

幕別町立札内東中学校

取組の名称 生徒会主体の「東中いじめ防止サミット」の取組

9月21日(木)5時間目

場所：幕別町立札内東中学校各教室

校長名 横 山 一 仁

全校生徒数 232名



【KJ法による話し合いの様子】

取組の概要

生徒会が主体となって、生徒のいじめ問題の未然防止や解決に向けた当事者意識を醸成することをねらいとして、「東中いじめ防止サミット」を行った。全校生徒が、いじめ問題の解決に向けた取組について、各教室でKJ法を用い、共感的理解の下、自由にアイデアを出し合い、自分事として議論を深めた後、グループでまとめた考えを全体に向けて発表し、共有した。

【生徒の感想】

他の人の経験や考えを聞いてよかった。話し合いで新しい視点や解決策を聞き、いじめはどんな理由があっても絶対に許せないことだと再認識した。

成 果

いじめ防止サミット実施後のアンケートでは、「いじめは絶対に許さないという気持ちが、一層強くなった」「いじめを発見した時に、見逃さずに行動に移す」など、いじめ根絶に対する当事者意識の高まりが見られた。

幕別町立忠類中学校

取組の名称 生徒会主体の異学年交流レクの取組

1月31日(水)昼休み

場所：幕別町立忠類中学校体育館

校長名 白 井 将 之

全校生徒数 32名



【異学年交流の様子】

取組の概要

生徒会が主体となって、「いじめの未然防止」に向けて、学年を問わず、日頃から交流を深め、お互いの絆を深めることをねらいとして、朝の挨拶運動や生徒会によるレクリエーション等の企画を実行した。実施主体として保体常任委員会が中心となり、全校生徒の絆を深めることをねらいとして、異学年交流レクを企画し、全校生徒が鬼ごっこをして交流した。

【生徒の感想】

日頃から、先輩・後輩と関わりをもつことは大切だと思う。運動が得意な人も苦手な人も、お互いのことを思いやりながら楽しむことができた。

成 果

異学年が交流する機会を通して、お互いのことを認め合う関係を構築するとともに、学校全体の温かい雰囲気づくりによって「いじめ未然防止」への雰囲気の高まりが見られた。

池田町立池田中学校

取組の名称 生徒会主体の「生徒集会」の取組

12月21日(木)5時間目

場所：池田町立池田中学校体育館

校長名 中村俊緒

全校生徒数 101名



【「生徒集会」の様子】

取組の概要

生徒会書記局が中心となり、仲間との交流を楽しみ、日頃の交流が少ない他学年とのレクリエーションを通じて人間関係を構築することを目的として、「生徒集会」を開催した。生徒同士のコミュニケーションを図るアイスブレイクやレクリエーションを通じて、喜びや楽しみを共有することで、望ましい人間関係を育み、生徒の相互理解を深めることができるよう活動内容を工夫した。

【生徒の感想】

いろいろな人とコミュニケーションを図るきっかけとなった。お互いのことを知り、互いに大切な存在なのだという事に気付いた。

成 果

生徒から「お互いのことを尊重する」「人に優しくする」「積極的にコミュニケーションをとる」「考えて発言する」「相手のことを理解する」などの感想があり、他者への理解を深め、互いを認め合う態度を育成し、いじめの未然防止につなげることができた。

豊頃町立豊頃中学校

取組の名称 ボードゲームやカードゲームを用いた異学年の交流

12月から

場所：豊頃町立豊頃中学校オープンルームほか

校長名 伊藤道彦

全校生徒数 57名



【交流後の生徒会便り】

取組の概要

休み時間にタブレットを利用して過ごす生徒が増加したことから、生徒会が話し合い、生徒同士のコミュニケーションの充実を図ることをねらいとして、ボードゲームやカードゲームを共有スペースに置くことによって異学年交流の充実を図った。タブレットの使用を制限することなく、多様な過ごし方を認め、交流の場を提供することがいじめ防止にもつながると考え、生徒会だよりでタブレット使用とゲームについて周知した。

【生徒の感想】

タブレットを触っている時は1人で楽しむことが多いが、ボードゲームはみんなで楽しむことができる。普段あまり話さない人と遊ぶ機会も増えた。

成 果

ボードゲーム等を通じて、生徒同士が対面により交流する時間が増え、ゲームをきっかけとして、コミュニケーションを広げることができるなど、生徒の主体的な交流を深め、いじめを生まない雰囲気醸成を図ることができた。

浦幌町立浦幌中学校

取組の名称 「感謝の木」と「生徒会レク」の取組

12月19、20、21日 昼休み

場所：浦幌町立浦幌中学校体育館

校長名 石 森 裕 章

全校生徒数 69名



【生徒会レクの様子】

取組の概要

他者を認め、仲間を思いやる態度を育成することをねらいとして、「感謝の木」の取組と生徒会レクを実施した。「感謝の木」の取組により、日頃の想いをメッセージカードに書いて掲示し、互いに伝え合うとともに、生徒会レクにおいて、全校児童が、互いの理解を深め、分け隔てなく接するとともに、各学年のつながりを深めることを通して、他者を認め、仲間を思いやる態度の育成を図った。

【生徒の感想】

毎日の挨拶や表情で相手が元気かどうか分かることが多い。感謝の木や生徒会レクを通して相手を思いやり、仲のよい学校生活を送りたいという気持ちをもった。

成 果

学校生活に関するアンケートにおいて、94%の生徒が、「頑張っている友だちを応援したり、励ましたりできる」と回答するなど、他者に目を向け、互いのがんばりを認め合う意識が高まり、いじめの未然防止につなげることができた。

浦幌町立上浦幌中学校

取組の名称 生徒会主体「いいねプロジェクト」の取組

8月22日(火)朝の活動

場所：浦幌町立上浦幌中学校体育館

校長名 安 齋 亮 太

全校生徒数 15名



【いいねプロジェクトの様子】

取組の概要

全校集会において、互いのよさを積極的に考えることにより、生徒が差別やいじめを生まない態度を育成することをねらいとして、生徒会主体「いいねプロジェクト」を行った。全校生徒が仲間にしてもらってうれしかったことなどを書き、生徒会本部が集約して生徒会室前に掲示し、全校生徒が見られるよう工夫した。

【生徒の感想】

生徒会室前に掲示することで全校生徒が交流することができ、互いのよさを知ることができた。さらに、それを見た生徒が笑顔になってくれたのもよかった。

成 果

生徒会が主体となり、「いいねプロジェクト」や「個性輝きキャンペーン」などの取組を通して、生徒が互いを認め合うことの大切さや意義について考え、学校全体で、いじめ根絶に向けた風土を醸成することができた。

本別町立本別中学校

取組の名称 生徒会主体の「他学年交流」の取組

令和6年1月22日(月)

場所：本別町立本別中学校視聴覚スペース

校長名 都 鳥 秀 史

全校生徒数 102名



【3年生へのメッセージ記入の様子】

取組の概要

学年・学級を超えて他学級の生徒と交流し、本別中学校生徒の絆を深めることをねらいとして生徒会が主体となった他学年交流の取組を実施した。縦割りの組織で取り組む体育祭や文化祭において、アドバイスをもらったり、手本を示したりしてくれた3年生に感謝の気持ちと受験に向けての応援のメッセージを伝える場を設定し、全校生徒の目に触れる場所に掲示した。

【生徒の感想】

行事だけでなく、3年生の先輩方に初めての定期テストへの取組方も優しく教えてくれて、自分も後輩に優しい先輩になりたいと思いました。

成 果

感謝と応援のメッセージを伝えることにより、相手に対する思いやりの気持ちを持ち、他者理解を深めるとともに、自分は一人ではないことや仲間のすばらしさに気づき、学校全体でいじめを絶対に許さない態度を育成することができた。

本別町立勇足中学校

取組の名称 コミュニケーションスキルのトレーニング

令和5年5月～11月

場所：本別町立勇足中学校体育館

校長名 齊 藤 芳 秀

全校生徒数 19名



【活動の様子】

取組の概要

生徒同士のよりよい人間関係を育成し、いじめを未然に防ぐことをねらいとして、全校生徒による探究活動を設定し、実際の探究活動を充実させるため、生徒のコミュニケーションスキルを高める活動を取り入れた。小規模校であるが故に、対人関係の経験不足が否めない中で活動を行うことにより、全校生徒の協調性と積極性が高まるよう工夫した。

【生徒の感想】

人とのコミュニケーションでは挨拶やマナーに気を付けて、どんな意見も優しく聞いてみることで、そして伝え方で誤解を招くことが人間関係を悪くすると再認識しました。

成 果

取組を通じて、生徒が対話と傾聴の大切さを意識し、よりよい人間関係を構築することにより、いじめの未然防止につながるとともに、教師と一緒に取り組むことにより、生徒理解を深め、学校全体のいじめを絶対に許さない温かい集団づくりにつながった。

足寄町立足寄中学校

取組の名称 「いじめ見逃し0（ゼロ）」生徒間交流の取組

12月18日(月)～22日(金)昼休み

場所：足寄町立足寄中学校体育館

校長名 中 井 哲

全校生徒数 143名



【生徒間交流の様子】

取組の概要

全校「いじめ見逃し0（ゼロ）」を目指し、いじめを絶対に許さない・見逃さない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会執行部が中心となり、異学年による生徒間交流を各学年4グループに分け、体育館で実施した。各学年による「いじめ見逃し0（ゼロ）」に向けて宣言を行うとともに、生徒同士の関係を深めることができるよう、異学年が交流できるゲームを行った。

【生徒の感想】

普段から同学年の人とは仲良くしているので、今後は他学年の人とも交流を深めたい。困っている人を見逃さないようにして、見掛けたら先生に相談しようと思う。

成 果

「この生徒間交流をまた行いたい」という生徒の感想から、生徒会執行部が再企画をするなど、継続的な取組に発展し、全校生徒のいじめを絶対に許さない・見逃さない意識を高めることができた。

陸別町立陸別中学校

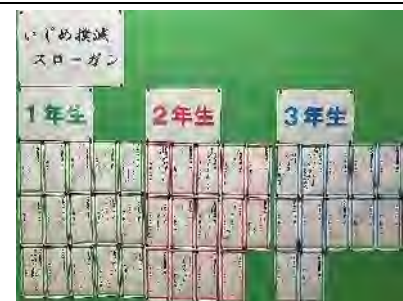
取組の名称 生徒会主体の「いじめ撲滅集会」の取組

12月19日(火)6時間目

場所：陸別町立陸別中学校体育館

校長名 伊 澤 理 紀

全校生徒数 49名



【いじめ撲滅スローガン掲示の様子】

取組の概要

生徒会書記局が中心となり、いじめについて深く考え、いじめは絶対に許されないことを自覚することをねらいとして開催した、いじめ撲滅集会において、全校生徒で動画を視聴した。「友だちが嫌な思いをしないようにどのようなことに気を遣うべきか？」というテーマについて話し合うとともに、話し合ったことを基に、一人一人が考えたいじめ撲滅スローガンを廊下に掲示し、全校生徒で常に意識、共有できるようにした。

【生徒の感想】

いじりは笑いのためと考えていたが、嫌な思いをさせているとは思っていなかった。自分自身の言動に気を配り、みんなが快適な学校生活を送れるよう意識していきたい。

成 果

いじめ撲滅集会を行い、日頃の言動を振り返り、自分の言動に気を付け、周囲に対して配慮する姿が見られるとともに、いじめ撲滅スローガンを廊下に掲示することにより、いじめに対する意識を高め、いじめは許されないという風土を醸成することができた。